

公的医療機関等2025プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

愛知県厚生農業協同組合連合会 稲沢厚生病院

【地域において今後担うべき役割】（P17）

尾張西部医療圏の入院医療ニーズは、高齢者人口の増加に伴って2030年頃まで増加し続け、2035年頃から減少すると見込まれている。2016年の病床数（2016年病床機能報告の結果）と2025年の必要病床数を比較すると、尾張西部医療圏は急性期から高度急性期、回復期へ機能転換が求められている状況にある。

医療圏内の各種指定状況を見ると、基幹病院の一宮市立市民病院、総合大雄会病院は、救命救急センター、地域医療支援病院等の多くの指定を受けており、稲沢厚生病院は、主要病院の少ない医療圏南部（稲沢市）に立地し、地域災害拠点病院の指定を受けている。

当院と稲沢市民病院の両院は、市北部に立地し、市南部も含めた稲沢市の地域医療を支えている点から、当院としては稲沢西部地区の急性期医療と尾張西部医療圏の回復期医療を継続して担っていくべきであると考えます。

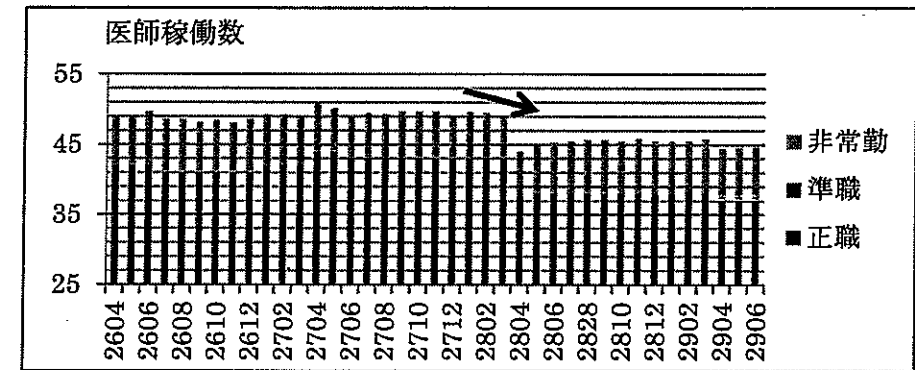
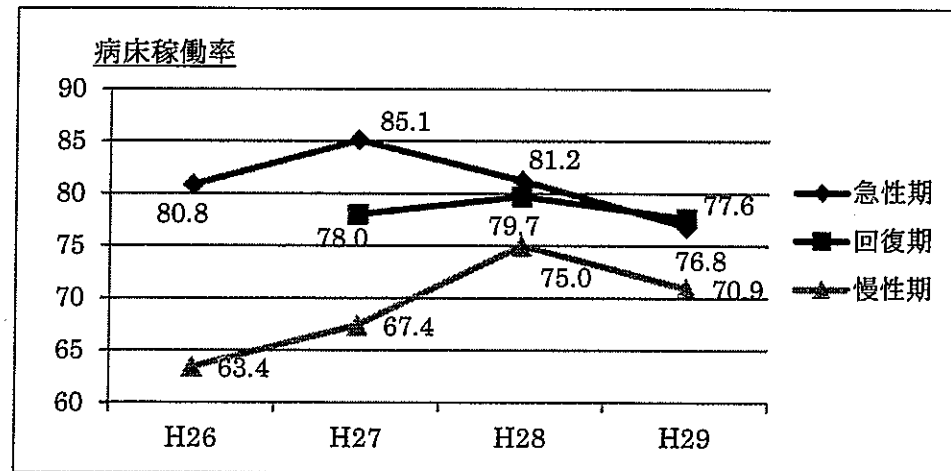
【今後持つべき病床機能】（P17）

稲沢西部地区の急性期医療体制と尾張西部医療圏の回復期医療体制の継続を担っていくべきであると考えことから現状の病床機能を継続していく。

平成28、29年度では病床全体で稼働率80%未満と低下している。

急性期病床の稼働率は平成27年度以降減少傾向にあるが、人口の減少による影響というよりは医師のマンパワー不足による影響であると考えます。

そのため、今後も継続して医師の確保に努めることを前提とし、病床機能を継続させ稼働率を改善していく方向性で平成30年度以降も運営していくべきであると考えます。



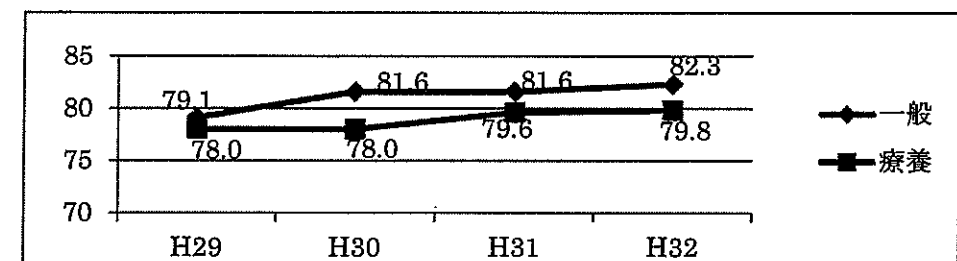
【今後の方針】（P18）

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	-	→	-
急性期	153		153
回復期	46		46
慢性期	50		50
(合計)	249		249

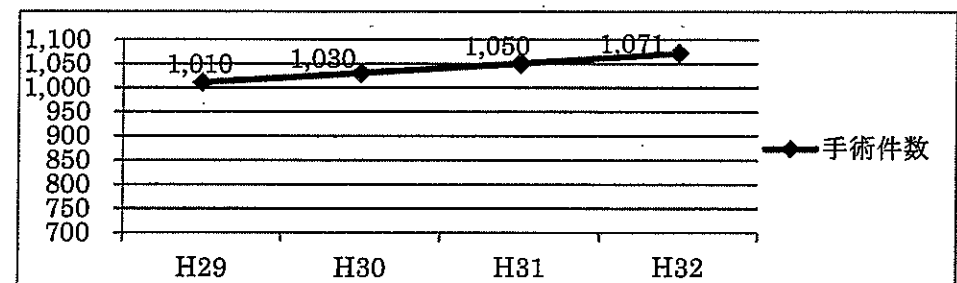
【その他の数値目標】（P18）

a) 医療提供に関する項目

病床稼働率



手術件数



紹介/逆紹介率

